

巡回ワゴン実証運行実績（上半期）の分析

巡回ワゴンは、令和3年10月から実証運行を行っているが上半期の運行実績は低調に推移している。その要因について、以下のとおり分析を行った。

1 分析の材料

- (1) 沿線地域町内会長からのヒアリング
- (2) 運行事業者から乗客の声をヒアリング
- (3) 沿線の免許返納者へのアンケート調査（※）を実施

※3路線沿線でバス停近くにお住まいの免許返納高齢者にアンケート調査を実施（6月）。茂辺地・石別線19人、上磯線23人、大野線17人、計59人にヒアリング。

- (4) 高齢者世帯等の分布を分析

2 茂辺地・石別線、上磯線について

(1) 巡回ワゴンの認知状況

- ・町内会長へのヒアリングでは「知られている」との回答だったが、免許返納者へのヒアリングでは、以下のとおり、上磯線について「知らない」と答えた方が多かった。

茂辺地・石別線	知っている	16人	知らない	3人
上磯線	知っている	10人	知らない	13人

- ・上磯線は、バス路線から離れた地域（三好・水無・桜岱）を含むため、公共交通に関心が低く、広報等にも注目されていないものと推測される。
- ・更なる周知・PRにより、利用促進の可能性のあるものと考えられる。

(2) 移動手段としての優位性

- ・町内会長へのヒアリングでは、「家族・親族の車で移動」「店舗の配送サービスを利用」「病院や介護施設の送迎を利用」との意見が多かった。
- ・免許返納者へのヒアリングにおいても、「親族の送迎」により移動しているとの回答が最も多かった。
- ・送迎や配送サービスを利用する生活スタイルが定着しており、現時点では生活スタイルを変えさせるまでのメリットが少なかったものと考えられる。

(3) 目的地

- ・免許返納者へのヒアリング、において、巡回ワゴンに乗るに当たっての障害として希望する目的地に行けないとの意見が最も多かった。
- ・主な目的地としては、久根別（魚長、コープ）、七重浜（イオン、温泉）であり、これは令和2年実施のアンケート調査結果とも一致している（公共交通計画p.60）。
- ・巡回ワゴン利用者からも、久根別駅まで運行して欲しいとの要望があった。
- ・巡回ワゴンは、既存の公共交通機関との乗り継ぎを前提としているが、自家用車による移動や親族等による送迎と比較すれば乗り継ぎに対するハードルは高いものと想定される。

(4) 運行地域

- ・町内会長へのヒアリングにおいて「住宅地の中を細かく走った方がよい」との意見があった。
- ・運行地域内の高齢者数や高齢者のみ世帯数が多い住宅地内にバス停を設けることで、利用促進の可能性があるものと考えられる。

3 大野線について

(1) 巡回ワゴンの認知状況

- ・町内会長へのヒアリング及び免許返納者へのヒアリングともに「知っている」との回答が多かった。

大野線 知っている 16人 知らない 6人

- ・「知らない」と回答した6人の内4人が「乗ってみたい」との回答であり、詳細を説明の上チラシの送付を行った。
- ・更なる周知・PRにより、利用促進の可能性があるものと考えられる。

(2) 移動手段としての優位性

- ・町内会長へのヒアリングでは、「まだ自分で運転している」「家族・親族の車で移動」「デイサービスの送迎を利用」との意見が多かった。
- ・免許返納者へのヒアリングにおいても、「親族の送迎」により移動しているとの回答が最も多かった。
- ・自家用車による移動、家族・親族の送迎による生活スタイルが定着しており、現時点では生活スタイルを変えさせるまでのメリットが少なかったものと考えられる。

(3) 目的地

- ・町内会長へのヒアリング、免許返納者へのヒアリングともに、目的地に対する要望等はなかった。
- ・新函館北斗駅、せせらぎ温泉、総合分庁舎前（ラルズ等）、公民館（魚長）といった主な目的地をカバーしているためと考えられる。

(4) 運行地域

- ・町内会長へのヒアリングにおいて「住宅地の中にバス停を設置してはどうか」との意見があった。
- ・運行地域内の高齢者数や高齢者のみ世帯数が多い住宅地内にバス停を設けることで、利用促進の可能性があるものと考えられる。

4 新型コロナウイルス感染症の影響について

以下のとおり新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の取組の最中の実証運行開始となり、正確な利用ニーズを把握することが困難であったものと考えられる。

- ・令和3年8月27日から9月30日 北海道における緊急事態措置
- ・ 10月1日から 巡回ワゴン実証運行開始
- ・令和4年1月27日から3月21日 まん延防止等重点措置